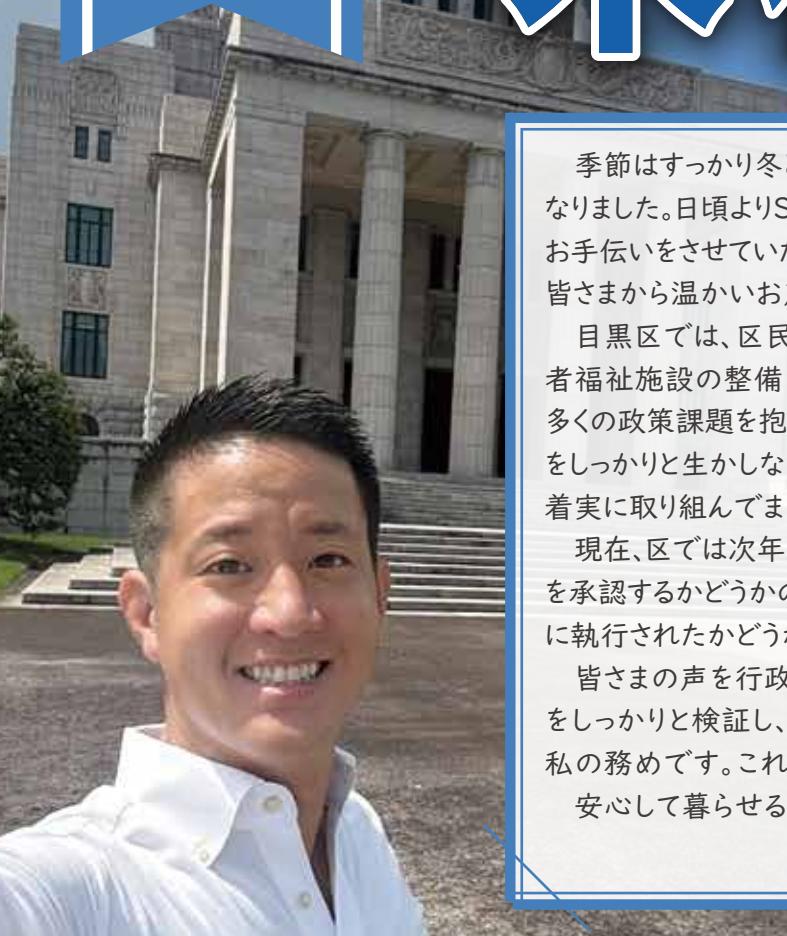


木村あきひろ



季節はすっかり冬となり、年末年始に向けて日本ならではの行事が続く時期となりました。日頃よりSNSでの発信に加え、目黒区内のさまざまなイベントに参加・お手伝いをさせていただく機会が増えております。活動の幅が広がる中、街なかで皆さまから温かいお声を掛けていただくことも多くなり、大変励みになっています。

目黒区では、区民センターや各公立学校などの公共施設の建て替え、高齢者福祉施設の整備・充実、子育て・教育環境の向上、防災対応力の強化など、多くの政策課題を抱えています。こうした課題に対し、区民の皆さまからいただく声をしっかりと生かしながら、皆さんとともに「住み続けたい街・目黒」の実現に向け、着実に取り組んでまいります。

現在、区では次年度の予算編成が進められており、2026年3月にはその予算を承認するかどうかの審議が行われます。また、直近では令和6年度予算が適切に執行されたかどうかを検証する審議も行われ、活発な議論が交わされました。

皆さまの声を行政へ確実に届けるとともに、税金が適切に活用されているかをしっかりと検証し、目黒区をより暮らしやすく、安心できる街にしていくことが私の務めです。これからも、ぜひご意見・ご要望をお寄せください。

安心して暮らせる街づくりに、引き続き全力で取り組んでまいります。

目黒区議会議員 木村あきひろ

令和8年度 目黒区予算特別委員会 2026年3月9日～3月17日開催

下目黒小学校と目黒区民センターの 今後の整備について

下目黒小学校は令和10年の150周年に合わせて建替えが始まり、工事期間中は目黒警察署近くの学校サポートセンターを仮校舎となります。新校舎は、住区センターや地域交流スペース機能などが併設された、地域に開かれた複合型として整備される予定です。

一方、目黒区民センターは令和9年に予定される区有施設見直し計画までは大きな動きはなく、今後は区民センターを含め、全ての区有施設の将来的な建替え・再編・複合化の方向性について区が検討しています。是非とも皆さんのご意見をお寄せください。



めぐろ学校サポートセンターを仮校舎として活用するうえでの現時点の想定スケジュール

施設の改修等	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
下目黒小学校								解体・新築工事
サポートセンター施設		設計		改修・増築工事				
中目黒スクエア	既存		改修工事					
機能と運営	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
下目黒小学校	小学校		既存小学校 仮校舎					解体・新築工事
めぐろ学校サポートセンター	学習相談	既存		中目黒スクエア(4～7階)				
	教職員サポート	既存		解体・新築工事				解体・新築工事
	歴史資料館	既存		区有施設等を活用して運営				
青少年プラザ	既存	廃止						
中目黒住区センター 児童館学童保育クラブ	既存			中目黒スクエア(2階)特別会議室を活用				

プロフィール

平成3年11月19日目黒区生まれ、目黒区育ち。目黒区立下目黒小学校、目黒区立第三中学校(現大鳥中学校)を卒業後、アメリカ・カナダの高校に通う。その後、埼玉大学教養学部に進学。在学中は中国人大連大学に留学。卒業後はAIG損害保険株式会社、PwCあらた有限責任監査法人で勤務。令和2年から衆議院議員辻清人事務所(東京2区)で公設秘書を勤める。令和5年4月目黒区議会議員選挙にて初当選。

主な役職

令和5年度 所属委員会等
・企画総務委員会
・区有施設等調査特別委員会
・自民党目黒区議団会計
令和6年度 所属委員会等
・文教・子ども委員会 副委員長

令和6年度 目黒区決算特別委員会

2025年9月17日～25日



決算特別委員会とは

決算特別委員会は、前年度の目黒区の予算がどのように使われたか、その使い道が適切で効果的だったかを審査する委員会です。予算委員会と同様に、全ての目黒区における事業を検証し、区民の皆さまからの税金が正しく、無駄なく活用されたかを審議して、次年度の改善点や政策への提案を行います。目黒区の成果を点検し、未来につなげる会議です。

1 いじめ・悩み相談「めぐろそだんポスト」の導入効果と課題について

質問

令和6年度から1人1台端末を活用した新たな相談窓口「めぐろそだんポスト」が始まりました。実際の利用状況や相談につながっているか、見守り希望の子への対応方法、また従来の電話相談の代替として機能しているかについて区の認識を伺います。



目黒区回答

令和6年7月の開始以降、小学校57件・中学校4件の計61件の利用があり、小学生の約6割は「見守り希望」、4割は実際の相談につながりました。相談内容は友人関係や学習、家庭など幅広く、潜在的な悩みの把握に一定の効果があると評価しています。また、見守り希望の児童についても学校と共有し、必要に応じて関係機関と連携して支援できる体制を整備しています。従来の夏期相談に比べ年利用でき利便性が高く、今後は実績を踏まえ改善に取り組む方針です。

2 国際理解教育・英語教育の取組と課題について

質問

目黒区で実施されているALT派遣、オンライン英会話、TOKYO GLOBAL GATEWAY等の国際理解教育が児童生徒の英語力や学習意欲にどの程度効果を上げているのか、またアウトプットの機会に格差が生じないようにする取組や学びを地域や国際交流の場につなげる仕組みについて区の認識を伺います。



目黒区回答

全国学力調査で「英語が好き」と答えた割合が全国・都を大きく上回り、将来の活用意識も高いことから、英語教育が学習意欲向上に一定の効果を上げていると評価しています。オンライン英会話では普段発言の少ない生徒も積極的に話す姿が見られました。アウトプットの機会確保として、全中学校でスピーキングテストを実施し、中1全員がTOKYO GLOBAL GATEWAYを体験。令和7年度からはオンライン授業を小学校20校と全中学校に拡大し、残る学校も都の支援で交流機会を確保します。さらに、MIFAの国際交流フェスティバル参加や中国・韓国との中学生交流を継続し、学びを地域や実社会へ広げていきます。

3 不登校離職と保護者支援について

質問

全国的に不登校児童生徒は増加しており、目黒区でも令和6年度は394人と増加傾向にあります。子ども本人だけでなく保護者が不登校を理由に仕事を辞める「不登校離職」について現状と区の認識を伺います。



目黒区回答

不登校離職を「子どもの不登校により保護者が退職・休職せざるを得ない状況」と捉え、低学年児の見守り不安や精神的負担から仕事との両立が難しくなるケースがあると認識しています。民間調査では保護者の約2割が離職したとの報道もあり、孤立や経済的困難が不登校の長期化につながる可能性から、社会的支援が必要としています。教育相談やスクールカウンセラー、「保護者ガイド」や親の会の紹介、講演会や意見交換の場を通じて支援を実施していますが、離職数は把握していません。今後も関係機関と連携し、保護者が安心して相談できる環境整備を進めています。

こちらから→各質問全文を
見れます！

